

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	認定NPOさわおとの森　こども発達センターあかいしの森　児童発達支援むーとん			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日　～　令和6年11月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 8 名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日　～　令和6年11月30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 名	(回答者数)	8 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	基本としている親子通園が強み。 親子通園の良さとしては、保護者様がこどもの成長を直に感じながら子どもとの関り方を学んでいけること、保護者様同士の繋がりを作っていけること、保護者様が不安な気持ちを支援者へ伝える事ができる環境が整っている事等が挙げられる。	支援者も保護者様と伴走する事で、保護者様の気持ちに寄り添いながらその時の適切な支援を提供していく。支援者間の連携も強化し、活動後の各クラスでの振り返りミーティングや、支援前のミーティングでその時のご利用児及び保護者様の状況を共有しチームで対応していく。保護者様同士の繋がりを作る機会としては「先輩ママパパの話聞く会」を特に重視しており、サービス利用から就学に至るまでの先輩ママパパの様々な葛藤や親子通園の良さを知ることが出来る機会となっており、好評をいただいている。また、当日参加出来なかった保護者様へも動画を録画し後日視聴していただく事で全員に行き届くよう留意している。	保護者様同士が交流できる機会を、勉強会等の他にも通常の利用時に茶話会を設定するなど意識的に導入していく。 また、近年単独通園を希望される保護者様が多い中で「親子通園の良さ」を各市町村の保健師へ伝えることで、サービス支給決定前の入口の時点で保護者様へ伝わるような取り組みを進めていく。具体的には「地域にお住まいでサービスを利用していない困り感のある方」が参加できる、あかいしの森主催の勉強会（専門職の先生が主催の勉強会も含む）や、先輩ママパパとのおしゃべり会、茶話会などに参加する機会を提供し、あかいしの森は「同じ悩みを共有できる交流の場」という事を知っていただく。
2	こども園や保育所同様の行事設定、年齢に応じたクラス編成や保護者様へ向けた発達に関する複数回の勉強会の実施などを行っている。また、勉強会の中にはペアレントプログラムを取り入れ、毎年参加希望のある保護者様が参加している。クラスは3クラスで編成し、基本となる午前中の親子通園2クラスの他に、午後の時間帯の単独通園1クラスを設置している。	クラス編成では入口のクラスの「はなぐみ」と、就学に向けてより大きな集団での生活に向けた練習をしていく「そらぐみ」親子通園を1年以上経験した児が利用できる単独通園の「みちぐみ」を設置し、それぞれのニーズに合わせてたきめ細やかな支援を提供している。勉強会では参加する保護者様が主体的に参加できるペアレントプログラムの他、摂食や発語、運動面などの専門的分野、父親に向けた勉強会等、幅広い分野の勉強会を実施している。	今後も幅広い分野での勉強会を実施していく中で、その時に必要とされているニーズにも留意し、より必要とされる内容の勉強会を実施していく。
3	児童発達支援センターとして、専門職員（言語聴覚士、作業療法士、臨床発達心理士）との連携を持つ事でニーズに対する支援の幅を広げている。ご利用児が並行利用しているこども園等への保育所等訪問支援（クラス担任等が訪問）を実施することで、訪問先の支援者とそれぞれの環境における一人ひとりに合った支援内容を共有することができる。	当日支援に入る専門職員にご利用児のニーズ及び現状を共有し、具体的な着眼点を持つことで支援に活かしていく。保育所等訪問支援では、ご本人の状態を把握しているクラス担任等が赴く事で、ご本人の状況を考慮しながら訪問先の環境の中で最善となる関わりができるよう訪問先の支援者と共有していく。	未就学を卒園した方とも積極的に保育所等訪問支援の契約をしていくことで、卒園後もあかいしの森との繋がりを保ちながら、専門的な支援を提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域で他のこどもと活動する機会がない。 ・立地的な条件等もあり、外から見る事業所の雰囲気伝わらずらい。	・以前は「あかいし祭り」を開催し、地域の福祉事業所の方に来ていただき販売会を実施したり、ご利用児が通うアート団体に依頼し参加型の演劇を行うなど、地域の方も参加できる機会を設けていたが、コロナ禍以降未実施となっている。 ・事業所が高台にあり道路から見えずらく、隣接するとみや子育て支援センターの方向からは各教室や園庭が見えず、事務所側の建物のみが見える構造となっている。	・今後「あかいし祭り」の再開を計画するなど、地域の方々に事業所を知っていただく企画を検討していく。地域の方々への発信と併せて保育所や認定こども園、幼稚園などへも情報提供を行うことで、まずはあかいしの森を知っていただくことから取り組んでいく。 ・道路側のフェンスや、とみや子育て支援センター側の事務所玄関周辺に「こどもが楽しく通う療育施設」という印象が伝わる装飾等を行う事を検討していく。
2	きょうだい児向けのイベント、きょうだい児同士の交流の機会がほぼない。	夏休みや冬休みなどの学校の長期休み期間の未就学児ご利用時間に一緒に来園するきょうだい児をレスパイト事業として受け入れて一緒に遊ぶなどの交流はしているが、限定されたメンバーでありイベントとしては機能していない。イベントとして開催するには配置できる職員の不足等の観点から通常の支援時間では難しい現状がある。	きょうだい児向けのイベントを、あかいしの森が地域の児童発達支援センターとして主催する富谷市・黒川地域自立支援協議会の「こども支援部会」の中で企画をする事も視野に入れるなど、地域に向けた取り組みのに参加していく事で改善していけるよう検討していく。
3	事業所の開所から10年以上が経過し、施設設備・遊具の老朽化が目立ってきている。	木造建築であることから、ウッドデッキや施設内の扉など、木造部分の劣化や破損が目立つようになってきている。合わせて園庭遊具のサビや破損箇所なども目立ち始めている。	事業所の「安全計画」に則った施設設備の点検を今後も定期的実施していく。早期の修理や改善が必要なものに関しては、長期間使用できるものに取り換えていくなど、見通しを持った対応を施していく。